

令和6年度とくしま流域水管理委員会 開催結果

日時：令和7年2月21日（金）

午後1時30分～3時

場所：徳島県庁11階 1105会議室

【概要】

令和6年度とくしま流域水管理委員会では、とくしま流域水管理行動計画について、今年度までに策定した計画の取組状況や新たに策定した計画（二級河川勝浦川、二級河川母川）などについて委員に報告し、意見を伺うとともに、今後も本計画を推進していくことを確認した。

【意見要旨】

■正法寺川

- ・「ファミリータイムライン」や「マイ・タイムライン」は良いツールだが、まだまだ認知度が低い。「マイ・タイムライン」の作成率の高い県でも約13%であり、認知度不足と作成手順の煩雑さが課題となっている。県が指導に出向くのが一番理想だが、マンパワーの限界もあるため研修リーダーの育成などができればより幅広く進めていけると思料する。

■河内谷川

- ・行動計画は、住民参加が一つの鍵だと思うので、支障がなければ自治会や自主防災会に参画頂くなど、何らかの形で住民の顔が見えるような体制が望ましい。

■那賀川（仁宇・阿井）

- ・災害対応向上の取組として、河川ライブカメラの映像を町のCATVで放映することは、良い取組だと思うので、調整が必要だとは思いますが、他の地域でもCATVの配信を検討してみてはどうか。

■広岡川

- ・1期目で実施した「グリーンインフラの勉強会」が、2期計画以降うまく繋がっていけば、他の流域の見本になるのではないかな。

■母川

- ・母川はオオウナギの生息地として知られているが、近年地域の子どもは、水と接する機会が減少しており、認識がない子供達もいると思う。水教育の中で、身近な自然についても伝えてほしい。
- ・取組指標の中で「水位計等による情報発信」とあるが、3年間毎年水位計を設置していくように思ってしまうので、計画に具体性を持たせた記載の方がいいのではないかな。

■全体

- ・ SNSの活用や、広報紙とタイアップして情報を配信するということを検討してみてもどうか。
- ・ 「護岸整備」について、地域の風景に配慮した整備を行うなど、地域の意向を聞いた上で整備することが大切。
- ・ 「防災講座」については、県下の防災士に講師をお願いすることを検討してみてもどうか。また、防災士や地元の方など教える気はあるが教え方がわからないという方もいるため、担い手の講習など受講する機会があれば担い手が増え、より魅力的になる。
- ・ 取組実施後、しっかり振り返りをしているのは非常に重要なポイント。全国で川づくりや川を利活用したまちづくりを実施している団体は沢山あり、年に1回程度集まり活動を報告し、投票して最優秀賞などを選ぶといったイベントがある。これに応募して自分たちの川づくりやまちづくりなどを全国に発信してみようという団体が出てくると面白い。あくまでも地域住民の自主性に任せて、声が上げれば良い。
- ・ 過去の浸水被害を示した地図を周知し、再認識してもらうことも重要。
- ・ 地元の除草活動について、「河川協力団体」という制度とうまく重ね合わせることで地元の方の参加を増やせないか。除草活動を実施している建設会社を国土交通省が「河川協力団体」に指定していたと思うので、参考にして頂きたい。
- ・ 行動計画について、どこかでゴールを設定する必要があるが、土砂掘削などの地元が望むハード対策が一通り終われば河川管理者側の関わり方は一段落つくと思うが、計画がすべて終われば元の状態に戻ってしまうので、地元の方が自分達でできることを継続してやっていけるような仕組みづくりや、雰囲気づくりが必要。資金面で必要なところをどう手当てするかについては、理想を言えば、自分達で賄うノウハウができれば非常にいい形に収まる。